



## 第三者意見～ステークホルダーダイアログ 久光製薬のCSR～医薬品企業としての責任

2014年の第三者意見は学生とのダイアログを実施して、より一般消費者に近い読者が久光製薬の取り組みやCSR報告書に対してどのように感じているか直接的な意見を求める形式としました。

開催概要 ■ 日時：2014年6月19日 ■ 場所：中部大学 ■ 参加者：中部大学／学生17名、オブザーバー／牧野教授

### 薬に対する印象

私は、アレルギー体質であることから薬の情報に対しては敏感です。くすりに関する情報をもっとわかりやすく、広く伝えるようにしてほしい。

薬の情報は、専門家でない限り完全に理解することは難しい。市販薬を買う時には、薬に対する評価だけでなく、企業に対する信頼も合わせて判断している。企業で働く一人ひとりの倫理性が感じられるような信頼醸成にも取り組んでほしい。

薬については、副作用は避けられないことだと思う。具体的な副作用の情報については、服用する私たちが理解し、自己責任で判断できるように徹底してほしい。

### サロンパス®について

家族も使っていたことから、サロンパスには身近さを感じている。長く使われることも信頼につながるのだと思う。

スポーツをしていたこともあり、よく使っていました。効果をもっと強くていいと思いますが、使いやすさもいろいろと工夫してほしい。

### 久光製薬CSR報告書2013の内容について

さまざまな取り組みが紹介されており、まじめに取り組んでいるのは感じられた。一方で、何を指して活動し、その目標が達成できたのか達成できなかったのかについても明確にしてほしい。

久光製薬独自の取り組み、他社にはない強みといったものが感じられるものがなかったように感じる。

より具体的な取り組みやリアリティを持った報告という面から、従業員の活動をもっと紹介した方が良かったと感じた。

やっていることについては、いろいろと書かれているが、どんな課題に対してチャレンジしているのかについてもより明確にしてほしい。

国内の状況に関する記事が多く、もっと海外の情報についても知りたいと思った。

環境のデータで海外の拠点も載っているのは好感が持てたが、省エネルギー、省資源・廃棄物削減、環境リスク対策という3つの括りが、本当に久光製薬にとって重要なものなのか疑問に思った。

久光製薬が設定する取り組みやリスクなどに関して、第三者など客観性をもった記載があると、より信頼性が高まると思う。

### 久光製薬CSR報告書2013の表現について

より読者目線での編集も必要だと感じた。キャラクターを使うなど、広告的な手法も取り入れることでもっと伝わるものが増えるのではないかと。

すべての文章を読んで理解するのは大変。印象に残るキャッチ・コピーなど、ポイントを絞った表現の工夫があっても良いと思う。

サロンパシィという言葉は、すごく印象的な言葉だと感じる。この言葉を掘り下げて訴求したら、より久光製薬らしさが出ると思う。

文章では、普段接しない言葉も含め、理解しづらいので、写真や図版だけで理解できる構成にしてほしい。

## 第三者意見総括

経営学科の3・4年生を対象とする私のゼミでCSR報告書の分析・検討を通じての会社研究を始めてから7年ほど経過しました。企業の存立やその活動が社会にはどのように見えるのか、企業不祥事続発の原因は何か、その再発防止は可能なのか、あるいは営利法人である株式会社がなぜ社会的責任を果たしていかなければならないのか、といった問題意識のもとに学生諸君がCSR経営についての研究に取り組んでいます。そうした学生にとって、今回の久光製薬とのダイアログは新鮮で刺激的であり、企業活動を直接会社関係者から学ぶことができた貴重な機会となったことは言うまでもありません。また、会社にとっては、次代を担う若者たちの忌憚のない意見や反応に接することは今後のCSR活動そのものの方向性やCSR報告の改善にむけて何らかのヒントがあったのではないかと感じています。

久光製薬について先入観のない学生とのダイアログを通じて、概ね次のような面がクローズアップされてきたように思われます。まず、薬の効用や安全性についての分かりやすい情報の提供が期待されていることが見えてきました。CSR活動の目標や中長期の方向性明示とその達成度合いの継続的な開示にも学生は注目しています。具体的には、企業倫理の確立や社会との信頼関係の確立にむけての取り組み状況、グローバルなCSR活動の展開と広範な情報の提供、他社のCSR活動と比べた場合の久光製薬としての独自性、理解しやすいCSR報告書の記述上の改善などについて学生が強い関心を持っていることが明確になってきました。

私が初めて第三者意見を述べた「2008CSR報告書」

と比較してみると、久光製薬の報告書は年々、改良を重ねて質量の両面において充実したものになっていることは客観的にみても明らかであります。もちろん、CSR活動に終わりがないように、CSR報告書に取り上げるべき活動内容の充実やその記述方法の改善にむけた企業としての努力にも最終的な着地点があるわけではありません。今回の学生とのダイアログが一つの契機となり、開かれた会社として、また持続可能な会社として久光製薬がさらなる挑戦の歩みを継続していくことを願っています。

私のゼミでは学生諸君に対して、「私にとってのCSR」とは何かについて、すなわちCSRの本質を、数文字程度にまとめることを義務付けています。例として「信頼関係構築」とか「Integrity:誠実」などを示して学生に考えさせたところ、「会社としての良心」、「思いやりの心」、「会社の土壌」、「社会と企業をつなげる架け橋」など、様々な表現が出てきました。最後に、それらの中で特に印象に残った「不言実行から有言実行へ」と「会社の年輪」を取り上げてみたいと思います。これからのCSR活動はその将来目標を社会に明示し、コミットすること、すなわち企業としての不退転の決意表明とその実行が求められていくことでしょう。まさに「不言実行から有言実行へ」です。そうしたCSR活動の積み重ねが「会社の年輪」として刻みこまれていくことでしょう。

中部大学  
経営情報学部教授  
牧野 英克



## 第三者意見をいただいて

久光製薬は、本業を通じた社会的責任への対応を基本に、社会課題に取り組んでまいりました。そして、その活動を分かり易く読みやすくお伝えするために、CSR報告書の改良を重ねてまいりました。牧野先生のご指摘の通り「CSR報告書2008」と比較すると、お伝えする情報量は年々増えてきましたが、CSRに終わりはないということを忘れずに、これからも、CSR報告書の充実に努めてまいります。

今回、牧野教室の学生さんとダイアログを開催することができました。医薬品企業のCSR活動というテーマで、学生の皆さんから数多くの貴重で新鮮なご意見

をいただきました。このダイアログを通じて、まだまだ、気が付かないことが数多くあることを痛感いたしております。

これからも、ステークホルダーのご意見に真摯に耳を傾け、久光製薬のCSR活動を推進してまいります。牧野先生には、改めて、感謝申し上げます。

取締役執行役員 CSR担当  
鶴田 敏明

